

神奈川県中・東部地域の温泉井および露頭地質試料 の石灰質ナノ化石分析結果

小沢 清*、堀内誠示*²

Calcareous nannofossils analysis of the geological samples obtained from the hot spring wells
and the outcrops in central and eastern Kanagawa Prefecture
by
Kiyoshi OZAWA* and Seiji HORIUCHI*²

1. はじめに

地下地質の解明のためには温泉井等が掘削された際に得られる地質試料(コア、カッティングス)は有効な資料である。しかし、これらの地質試料から岩相を判断し、地層区分を行うことには困難な場合も多い。このような地層区分にとり、地層の年代を明らかにすることは有効な方法であることから石灰質ナノ化石分析を行った。また、地下地質と地表地質との関連を見るために露頭試料についても行った。本資料はこれらの結果をまとめたものである。

2. 試料の採取位置と岩質

温泉井等の掘削位置及び露頭位置は図1、2及び表1に示す。温泉井の地質については小沢、江藤(2005)に記載してある。露頭試料は微化石分析による年代の報告の少ない大磯地域の高麗山周辺で主に採取した。試料番号54(大磯町大磯)は、三沢川左岸に沿った道路脇の崖露頭から採取した凝灰質砂質泥岩である。試料番号55(大磯町大磯)は、国道1号沿いの東海道線ガードの南側にある露頭から採取した凝灰質珪質泥岩である。試料番号56(大磯町大磯三沢川)は、三沢川左岸沿いの露頭から採取した珪質泥岩である。試料番号57(大磯町高麗)は、高麗山北斜面の小さな沢を上った露頭から採取した珪質泥岩である。試料番号58(平塚市万田)は、高麗山北西斜面の小さな沢を上った露頭から採取した凝灰質細粒砂岩である。

3. 分析方法

カッティングス試料の場合は、120メッシュのふるい上で洗い出し、ふるいに残った泥岩部を処理用試料とした。岩片は、肉眼で観察し、層相が異なるものが混在し

ている場合は可能な限り分類し、それぞれを分けて分析試料とした。分析処理は、高山(1976)の示した方法で行い、顕微鏡観察用のプレパラートを作成した。

検鏡は、偏光装置を備えた位相差顕微鏡を用いて、油浸1500倍で行った。計数は、有光帯下部に生育するとされる *Florisphaera profunda* を除いて100個体を目安に行い、さらに全体を精査して産出種の見落としがないように努めた。また、*Coccolithus pelagicus*、*Dictyococcites productus* Groupe、*Gephyrocapsa caribbeanica-oceanica* Groupe、*Reticulofenestra asanoi*、*Reticulofenestra gelida*、*Reticulofenestra pseudoumbilicus* については1μm単位で分けて計数を行った。

保存状態(Preservation)の目安としては、次のように区分した。G(Good):良好:殻は溶解(破損)あるいは再結晶作用の影響を受けていない。M(Moderate):普通:一部に溶解(破損)または再結晶した個体が認められる。P(Poor):不良:殆どの殻が溶解(破損)または再結晶作用の形跡が認められる。V(Very poor): 極不良:すべての殻が、溶解あるいは再結晶しており、種の同定が容易でない。VV(Very very poor): 極極不良:すべての殻が、溶解あるいは再結晶しているため種の同定が困難である。

産出頻度(Abundance)の目安としては、次のように区分した。A(Abundant):0.1mm²中に10個体以上。C(Common):0.1mm²中に1個体以上。F(Few):0.2mm²中に1個体以上。R(Rare):0.2mm²中に1個体以下。VR(Very rare):4mm²中に1個体以上。VVR(Very very rare):4mm²中に1個体以下である。

なお、微化石年代尺度としては、基本的に Berggren *et al* (1995)を用いる。ただし、本邦の基本尺度として、尾田(1986)の東北・中部日本新第三紀古磁気・微化石年代尺度、秋葉(1992)および斎藤(1999)も参考にした。

* 神奈川県温泉地学研究所 〒250-0031 神奈川県小田原市入生田586
*² パリノ・サーヴェイ(株) 〒375-0011 群馬県藤岡市岡之郷戸崎559-3
資料, 神奈川県温泉地学研究所報告, 第37巻, 65-74, 2005

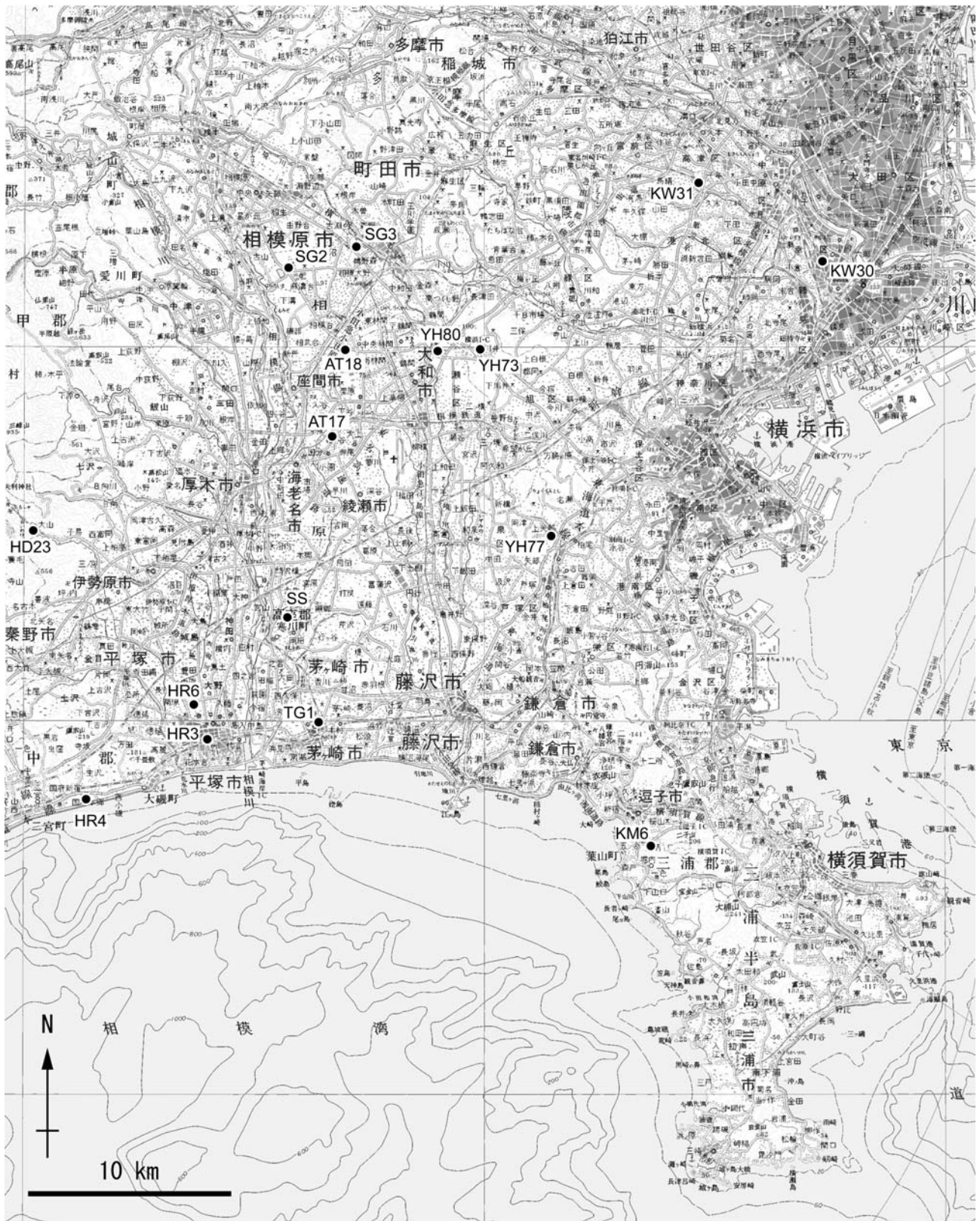


図1 温泉井の位置図(国土地理院 1 / 200,000 地勢図「東京」、「横須賀」使用)



図2 露頭試料の位置図(国土地理院 1 / 50,000 地形図「平塚」、「小田原」使用)

石灰質ナンノ化石の年代に関しては、基本となる石灰質ナンノ化石帯は Okada and Bukry(1980)、示準種のレンジ、化石基準面およびその年代値は、新第三紀を Berggren *et al* (1995)、新第三紀後期から第四紀を Takayama and Sato(1987)、Takayama(1993)、Sato *et al* (1991)、高山ほか(1995)、Raffi and Flores(1995)、Sato *et al* (1996)、Young(1998)、Sato *et al* (1998)、Okada(2000)、Kameo and Blalowe(2000)等を参考にし、主として佐藤ほか(1999)を使用して第三系から第四系の石灰質ナンノ化石帯区分および基準面に基づいた年代の推定を行った。

4. 分析結果

分析結果を表2に示す。温泉井等の試料でカッティングスには試料番号の後に*を付して、コアと区別した。分析結果については小沢、江藤(2005)において、地層の区分に際し参考にした。

なお、分析結果の中で、YH80号については1002mの試料のナンノ化石群集が CN12a 亜帯を示すのに対して、下位にあたる1502mの試料の群集は、CN12 帯上部の可能性が考えられた。このことは、掘削時に上位から試料が落ち込んだことあるいは二次堆積の影響の両者を考慮しても、群集から判断すると両者のいずれとも考え難い。そのため、YH80号の1002mと1502mの試料は、整理保管中に試料と深度記載が入れ替わった可能性が高いと判断される。

以下に、露頭試料の石灰質ナンノ化石帯について考察する。

表1 温泉井の掘削位置および深度

略号	所在地	緯度 経度	標高 m	深度(地表) 深度(海拔)
YH73	横浜市 旭区上川井町	35° 30' 6.5" 139° 29' 44.3"	60	1500 1440
YH77	横浜市 戸塚区上矢部町	35° 25' 11.8" 139° 32' 9.4"	17	1507 1490
YH80	横浜市 瀬谷区五貫目町	35° 29' 59.7" 139° 28' 11.3"	73	1502 1429
KW30	川崎市 幸区塚越4丁目	35° 32' 25.3" 139° 41' 0.1"	4	1300 1296
KW31	川崎市 宮前区野川	35° 34' 30.5" 139° 36' 46.2"	19	1500 1481
SG2	相模原市麻溝台	35° 32' 14.3" 139° 23' 27.5"	104	1500 1396
SG3	相模原市鶴野森 1丁目	35° 32' 49.5" 139° 25' 39.8"	100	1400 1300
AT17	海老名市柏ヶ谷	35° 27' 50.9" 139° 24' 46.0"	55	1301 1246
AT18	座間市広野台 2丁目	35° 30' 7.6" 139° 25' 21.4"	80	1300 1220
HR3	平塚市錦町	35° 19' 38.8" 139° 20' 42.9"	7	1301 1294
HR4	大磯町国府本郷	35° 18' 7.1" 139° 16' 46.3"	11	1600 1589
HR6	平塚市大原	35° 20' 44.2" 139° 20' 33.9"	9	1500 1491
TG1	茅ヶ崎市茅ヶ崎 3丁目	35° 20' 14.2" 139° 24' 26.9"	5	1500 1495
KM6	葉山町長柄	35° 16' 56.5" 139° 35' 8.1"	17	301 284
HD23	伊勢原市大山	35° 25' 14.3" 139° 15' 14.3"	244	1800 1556
SS	寒川町小動 (寒川町地盤沈下観測井)	35° 23' 0.8" 139° 23' 21.5"	12	165 153

緯度、経度は世界測地系による
深度表示で、上段は地表からの、下段は海面からの深度を表す(単位:m)

試料番号 54(大磯町大磯)

本試料は、*Discoaster berggrenii* および *Discoaster qinqueramus* が認められたことから、CN9 帯に比較される。CN9 帯は、後期中新世の後期であり、時間としては、8.6Ma ~ 5.6Ma の約 300 万年間である。ただ、観察の際には、*Discoaster berggrenii* が多い傾向にあったこと、

CN9b 亜帯に出現する *Amaurolithus primus*、*Amaurolithus tricorniculatus* 等が認められないことから、CN9 帯の中でもやや中～下部 (CN9b 下部～CN9a 亜帯) の可能性が示唆される。

試料番号 55 (大磯町大磯)

本試料の年代としては、*Cyclicargolithus floridanus* が認められず、*Discoaster deflandrei* および *Discoaster kugleri* の近似種が認められたことから、おおむね CN5b 亜帯に比較されるものと考えられる。

試料番号 56 (大磯町大磯三沢川)

本試料は、*Cyclicargolithus floridanus*、*Discoaster deflandrei*、*Reticulofenestra gelida* および *Reticulofenestra pseudumbilicus* が認められたことから CN3～CN5a 亜帯の間のいずれかの時代と推定される。ただし、CN3～CN4 帯に特徴的に認められる *Sphenolithus heteromorphus* が認められない点では、CN5a 亜帯の可能性がある。

試料番号 57 (大磯町高麗)

本試料は、*Helicosphaera ampliaperta*、*Helicosphaera euphratis*、*Discoaster intermedia*、*Reticulofenestra gelida*、*Reticulofenestra pseudumbilicus*、*Sphenolithus heteromorphus* 等が共存し、また、*Discoaster deflandrei* が卓越することから CN3 帯に比較される。CN3 帯を決定づけたのは、*Helicosphaera ampliaperta* であり、本種の絶滅は CN3 帯の上限を規定している。本種は当初、地中海地域の浅海性層では多産するため、地中海地域の固有種の可能性が示唆された。そのため、本邦では最近までその生息に確証が得られていなかった。しかし、近年、中高緯度地域に属する本邦においても東北日本まで産出することが確認された。寒冷で沿岸～浅海域の堆積物の多い本邦にあって、前述の *Discoaster* はそれ自体が多産しにくく、*Discoaster deflandrei* の豊産 (アクメ) で判断するのは難しい。また *Discoaster* は再結晶化を受けやすいために、*Discoaster deflandrei* の識別が困難な場合が多い。そのため、本邦においても *Helicosphaera ampliaperta* は、最も信頼度の高いマーカーといえる。

試料番号 58 (平塚市万田)

本試料は、*Helicosphaera scissura*、*Reticulofenestra gelida*、*Reticulofenestra pseudumbilicus*、*Sphenolithus heteromorphus* 等が共存すること、また、*Discoaster deflandrei* が卓越し、認められた *Discoaster* 属の中で占める割合が高いことから、CN3 帯に比較される。

Helicosphaera scissura の最終出現層準については、佐藤 (1982) によると、新潟の北五百川地域の七谷層と秋田の男鹿半島における西黒沢層のナンノ化石群集を検討した結果では、*Helicosphaera scissura* の最終出現層準を

Martin (1971) の NN4/5 境界とし、この層準は Okada and Bukry (1980) の CN3 帯の上部に比較されている。

注：Martin (1971) と Okada and Bukry (1980) のそれぞれの化石帯は、おおむね同様であるが、前期中新世から中期中新世の初頭の化石帯に関しては、それぞれの境界が若干異なっている。Okada and Bukry (1980) では、化石帯設定のカテゴリーが示されているわけではないため厳密な比較対比は行えない。Okada and Bukry (1980) の化石帯のカテゴリーについては、Bukry (1973a, b, 1975 など) から間接的に考えるしかないが、CN3/4 帯境界、NN4/5 境界については、結局、Martin (1971) と Okada and Bukry (1980) の両者とも *Helicosphaera ampliaperta* の最終出現層準をもってそれぞれの境界とされてきた。したがって、基本的には、Martin (1971) と Okada and Bukry (1980) のそれぞれの NN4 帯と CN3 帯は、コード番号は異なるものの、化石帯を決定する上で採用した示準種が同様であることから上下の境界は一致していると考えて差し支えない。その場合、佐藤 (1982) が NN4/5 境界を CN3/4 帯境界ではなく、境界より下位 (CN3 帯の上部) に比較しているのは矛盾しているが、それは検討が行われた 1982 年当時には NN4/5 境界を決めるもととなった *Helicosphaera scissura* の生存期間が現在のような精度で捉えられていなかったことに起因しているものと思われる。

Helicosphaera scissura は、*Helicosphaera ampliaperta* と近縁の種であるが、現在では CN3/4 帯境界あるいは NN4/5 境界を決めるためのセカンドマーカーとして考えられている。しかし、Martin (1971) と Okada and Bukry (1980) では認定されていない。両者が *Helicosphaera scissura* を認定していないのは、本種が記載されたのが前述の化石帯が提唱された後であり、おそらく化石帯設定時には *Helicosphaera ampliaperta* に含まれていた可能性がある。

5. 地層の年代

露頭試料の分析結果に基づき、対象とした地層の年代 (石灰質ナンノ化石帯) について考察する。

Ito (1986) では、高麗山層群北大磯層の年代は石灰質ナンノ化石帯の CN4 帯と報告されているが、試料の採取場所は明確にされていない。試料番号 56 は、木村、藤岡 (1981) の高麗山層群北大磯凝灰質頁岩層に相当し、試料番号 57 と 58 は、高麗山層群千畳敷凝灰質砂岩互層に相当する。それらの結果は、各々石灰質ナンノ化石帯の CN3～5a 亜帯、CN3 帯、CN3 帯と求められたことから、Ito (1986) の化石帯と調和している。したがって高

麗山層群の年代は、CN3 ~ 5 帯であることはほぼ確実であるといえる。これは、三浦地域の葉山層群とほぼ同じ年代(CN3 ~ 6 帯、江藤ほか、1987; 岡田、1995)である。

試料番号 54 は、木村、藤岡(1981)の三浦層群大磯凝灰質砂岩泥岩互層、Itα(1986)の三浦層群大磯層に相当し、その結果はItα(1986)で報告されているのと同じ、CN9 帯である(Itα(1986)では、試料の採取場所は明確にされていない)。蟹江ほか(1999)も Itα(1986)の三浦層群大磯層に相当する照ヶ崎および西小磯におけるシルト岩の石灰質ナンノ化石年代を CN9 帯と報告している。また、茨木(1978)が、大磯層(大塚、1929)の模式地されている地層等で行った浮遊生有孔虫により明らかにした年代、すなわち Blow(1969)の N17 帯と同年代であることが確認された。

試料番号 55 を採取した露頭は、小島(1954)が、立岩ほか(1954)により現在の大磯港で発見された堅緻な泥岩を主とする砂岩との互層とともに高麗山層群東照ヶ崎泥岩層としたものであり、また木村、藤岡(1981)は三浦層群大磯凝灰質砂岩泥岩互層としたものである。今回の結果では、CN5b 帯であることが分かった。これにより、この露頭は、高麗山層群(東照ヶ崎泥岩層)である可能性が高くなった。

二宮町の吾妻山を構成する中新統と考えられている地層(石黒 1974; Ito 1986; 矢野 1986)について、分析を行ったが、石灰質ナンノ化石が産出しなかったため、その年代を明らかにすることはできなかった。

なお、試料番号 59、60、61 については、石灰質ナンノ化石のほかに放散虫化石についても分析を行ったが、いずれにおいても検出されなかった。

6. おわりに

温泉井および露頭等の地質試料について石灰質ナンノ化石年代を明らかにした。これにより、地表の地層と地下の地層との対比に有益な資料が得られ、地下地質の解明が進んだ。試料を提供して下さった温泉井の施主および掘削事業者には厚くお礼申し上げます。なお、分析は堀内が担当した。

参考文献

秋葉文雄(1992) 微古生物学的探査技術, 日本の石油・天然ガス資源(天然ガス鉱業会・大陸棚石油開発協会編), 359-377.

Berggren, W. A., Kent, D. V., Swisher, C. C. And Aubry, M-P (1995) A Revised Cenozoic Geochronology And Chronostratigraphy, Geochronology Time Scales And

Global Stratigraphic Correlation, Sepm Special Publication 54, 129-212.

Blow, W. H (1969) Late Middle Eocene To Recent Planktonic Foraminiferal Biostratigraphy: In Bronnimann, P. And Renz, H. T., Eds., Proceedings Of First International Conference On Planktonic Microfossils, Geneva, 1967, Leiden, No. 1, 199-422.

Bukry, D (1973a) Coccolith Stratigraphy, Eastern Equatorial Pacific, Leg 16, Deep Sea Drilling Project, Init. Rep. D. S. D. P., 16, 653-711.

Bukry, D (1973b) Low-Latitude Coccolith Biostratigraphic Zonation, Initial Rep. Deep Sea Drill. Proj., 15, 685-703.

Bukry, D (1975) Coccolith And Silicoflagellate Stratigraphy, Northwestern Pacific Ocean, Deep Sea Drilling Project Leg 32, Initial Rep. Deep Sea Drill. Proj., 32, 677-701.

江藤哲人、尾田太良、長谷川四郎、本田信幸、舟山政昭(1987) 三浦半島中・北部の新生界の微化石生層序年代と古環境, 横浜国大理科紀要, 2 類(34), 41-57.

茨木雅子(1978) “西小磯層”・“大磯層”の浮遊生有孔虫について, 静岡大学地球科学研究報告(3), 1-8.

石黒 進(1974) 大磯丘陵東南部の地質, 神奈川温研報告, 5, 141-148.

Ito, M (1986) Neogene Depositional History In Oiso Hill: Development Of Okinoyama Bank Chain On Landward Slope Of Sagami Trough, Central Honshu, Japan, Jour. Geol. Soc. Japan, 92, 47-64.

Kameo, K. And Blalower, T. J (2000) Neogene Calcareous Nannofossil Biostratigraphy Of Sites 998, 999, And 1000, Caribbean Sea. In Sigurdsson, H., Lecke, R. M., Acton, G., Et Al., Eds., Proc. ODP, Sci. Results, 165, College Station TX (Ocean Drilling Program), 3-17.

蟹江康光、平田大二、今永 勇(1999) 大磯丘陵と相模湾、沖ノ山堆列の地質と微化石年代, 神奈川博調査研報(自然)(9) 95-110.

木村政昭、藤岡換太郎(1981) 神奈川県大磯丘陵で発見された枕状溶岩, 地質雑, 87, 837-840.

小島伸夫(1954) 大磯地塊の地質について, 地質雑, 60, 445-454.

Martini, E (1971) Standard Tertiary And Quaternary Calcareous Nannoplankton Zonation. In Farinacci, A. (Ed.), Proc. 2Nd Int. Conf. Planktonic Microfossils, Roma: Rome (Ed. Technosci.), 2, 739-785.

尾田太良(1986) 新第三紀の微化石年代尺度の現状と問題点 - 中部および東北日本を中心として -, 北村信教

- 授記念地質学論文集, 297-312 .
- 岡田尚武 (1995) 三浦半島中央部の葉山層群の石灰質ナノ化石年代, 横須賀市文化財調査報告書 (29), 23-30 .
- Okada, H. (2000) Neogene And Quaternary Calcareous Nannofossils From The Blake Ridge Sites 994, 995 And 997 .In Proc .Odp ,Sci .Results , 164 ,331-341 .
- Okada ,H and Bukry ,D .(1980) Supplementary Modification And Introduction Of Code Numbers To The Low-Latitude Coccolith Biostratigraphic Zonation .Marine Micropaleontology , 5 ,321-325 .
- 大塚弥之助 (1929) 大磯地塊を中心とする地域の層序に就て(其二), 地質雑, 36, 479-497 .
- 小沢 清、江藤哲人 (2005) 神奈川県中・東部地域の 大深度温泉井の地質および地下地質構造, 神奈川温地研報告, 37, 15-38 .
- Raffi, I. and Flores, J. A. (1995) Pleistocene Through Miocene Calcareous Nannofossils From Eastern Equatorial Pacific Ocean (Leg 138). In Pisias N. G. , Mayer, L. A. , Janecek, T. R. , Palmer-Julson, A. And Van Andel, T. H. (Eds.), Proc . Ocean Drilling Program , Sci . Results , 138 ,233-286 .
- 斎藤常正 (1999) 最新の古地磁気層序の改訂と日本の標準微化石層序, 石油技誌, 64, 2-15 .
- 佐藤時幸 (1982) 石灰質微化石群集に基づく七谷層と西黒沢層の生層序学的考察, 石油技術協会誌, 47, 374 - 379 .
- 佐藤時幸、高山俊明 (1988) 石灰質ナノプランクトンによる第四系化石帯区分, 地質学論集 (30) 205-217 .
- Sato, T. , Saito, T. , Takahashi, H. , Kameo, K. , Sato, Y. , Osato, C. , Goto, T. , Higashi, D. and Takayama, T. (1998) Preliminary Report On The Geographical Distribution Of The Cold Water Nannofossil Coccolithus Pelagicus (Wallich) Schiller During The Pliocene To Pleistocene, J. Min Coll. Akita Univ. , Ser. A, 8, 33-48 .
- Sato, T. , Kameo, K. and Takayama, T. (1991) Coccolith Biostratigraphy Of The Arabian Sea, Proceedings Of The Ocean Drilling Program, Scientific Results ,117 ,37-54 .
- Sato, T. and Kameo, K. (1996) Calcareous Nannofossil Biostratigraphy Of The Arctic Ocean ., ODP Leg 151 . In Thiede, J. , Myhre, A. M. , Firth, Jv. , Johnson, G. L. And Ruddiman, W. F. , Eds. , Proc . ODP Sci . Results , 151, College Station, Tx (Ocean Drilling Program), 39-59 .
- 佐藤時幸、亀尾浩司、三田 勲 (1999) 石灰質ナノ化石による後期新生代地質年代の決定精度とテフラ層序, 地球科学, 53, 265-274 .
- 高山俊明 (1976) 石灰質ナノプランクトン, 微古生物学 (中巻) 浅野 清編, 朝倉書店, 237p .
- Takayama, T. (1993) Note On Neogene Calcareous Nannofossil Biostratigraphy Of The Ontong Java Plateau And Size Variations Of Reticulofenestra Coccoliths, Proceedings Of The Ocean Drilling Program, Scientific Results ,130 ,179-229 .
- Takayama, T. And Sato, T. (1987) Coccolith Biostratigraphy Of The North Atlantic Ocean, Deep Sea Drilling Project Leg 94 ,Initial Rep .Deep Sea Drill .Proj .,94 ,651-702 .
- 高山俊明、佐藤時幸、亀尾浩司、後藤登美子 (1995) 第四系石灰質ナノ化石層序と鮮新統 / 更新統境界の年代値, 第四紀研究 ,34 ,157-170 .
- 立岩 巖、生越 忠、加藤 昭 (1954) いわゆる “大磯層” の中に発見された傾斜不整合について, 地質雑, 60, 358-359 .
- 矢野 享 (1986) 大磯丘陵南部地域の層序とその地質年代および堆積環境, 静岡大学地球科学研究報告, (12), 191-208 .
- Young, J. R. (1998) Neogene . In Bown P. R. (Eds.), British Micropalaeontological Society Publications Series , Calcareous Nannofossil Biostratigraphy, The University Press ,Cambridge ,225-282 .